

解 答 速 報



埼玉医科大学 一般選抜後期

英語 医特

医学部受験予備校

1

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
②	④	①	③	②	①	③	④	④	①

2

11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
③	①	④	①	②	③	③	④	①	②

3

21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
②	③	①	②	④	②	③	③	④	④

4

31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
④	③	②	③	①	②	④	①	④	③

【講評】

- 大問1：オーソドックスな文法4択問題に加え、2文の空所に共通して入る語選択の問題、数行の短文に設けられた2カ所の4択問題で構成されていた。(今回は誤箇所指摘問題の出題はなかった。) 問4のwas to have been Vp.p. ～で「～される予定だった(が実現しなかった)」を表すbe to構文の用法は文法問題としての出題頻度も低く、正答率も低いだろうと予想される。問9のdo with ～「～を処分する」は通例whatを用いた疑問文で表すが、この知識も出題頻度としてはあまり高くない。それ以外はどれも基本的なレベルなので、取りこぼしなく迅速に済ませたい。
- 大問2：「電化製品のゴミ(e-waste)の処理問題」に関する読解と、それに関するメールのやり取りについての問題。設問も含めて取り組み易いものであった。26年度前期から、会話文ではなくメールのやり取りになっていたが、読解量がかなり減り時間がかからなくなったと思われる。
- 大問3：「体臭によるパーキンソン病診断」についての英文であった。本文の読解・問題選択肢の正誤判断ともにさほど難解なものではなかった。必要に応じて消去法を駆使して、できるだけミスなく正解を選びたい。
- 大問4：標準的な長文読解問題。「現在の世代をある程度優遇することは不可避でありながらも、未来の世代を考慮に入れた行動を取ることの重要性」がテーマ。抽象的な内容ではあるものの、受験生の日頃の学習で目にしたことのあるテーマのはずなので、さほど読解には苦勞しなかったと思われる。本文の論理を正確に追ったうえで消去法を施さなければ解きにくい問題が数問あった。これらの問題でどれほどミスをしなかったかが合否の鍵を握る。

大問数は4題で、昨年度の形式から大きな変化はなかった。設問数は全部で40問。難易度は昨年度並み～やや易化。いわゆる難問奇問の類いの出題は今年度もなかった。いかにスムーズに問題全体を処理できたか、そして、集中力を保って長文3題を対処できるスタミナがあったかが勝負の分かれ目。合格ラインは75～80%。



メルマガ登録(無料)またはLINE公式アカウント友だち登録(無料)で全教科閲覧できます!
メルマガ登録は左のQRコードから、LINE友達登録は右のQRコードから行えます。



<p>渋谷校</p> <p>☎ 0120-142-760</p> <p>東京都渋谷区桜丘町6-2</p>	<p>名古屋校</p> <p>☎ 0120-148-959</p> <p>名古屋市中村区名駅2-41-5 CK20名駅前ビル2F</p>	<p>大阪校</p> <p>☎ 0120-142-767</p> <p>大阪府吹田市広芝町4-3-4 江坂第1ビル3F</p>
<p>個別専門館 麹町FC校</p> <p>TEL: 03-6272-4175</p> <p>東京都千代田区二番町8-20</p>	<p>提携校 医学部特訓塾</p> <p>TEL: 03-6279-9927</p> <p>東京都杉並区阿佐谷南3-37-2 第二大同ビル2F</p>	